

(病院医療ソーシャルワーカーの方へ)

在宅療養に関するアンケート調査

調査ご協力をお願い

近年、高齢者をはじめとした在宅医療・介護を取り巻く環境は大きく変化し、今後在宅での療養生活を送る区民は増加していくことが見込まれます。高齢者が住み慣れた地域で安心して療養生活を続けるためには、医療・介護の関係者が連携し、本人・家族が望む生活の実現に向けて支援することが重要であり、その仕組みづくりが喫緊の課題となっています。

練馬区では、在宅療養に関する取組を検討する際の基礎資料とするため、医療・介護の関係者を対象に、「在宅療養に関するアンケート調査」を実施することといたしました。

お忙しいところ大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。なお、調査結果は、この調査の目的以外に使用することはありません。

平成 25 年 8 月

練馬区

《送信期限・問い合わせ先》

ご記入が済みましたら、誠に恐縮ですが、**8月21日(水)まで**に FAX で担当までお送りください。(調査票は5枚あります。)

ご回答いただく上でご不明な点、調査に関するお問い合わせは、下記までお願い致します。

連絡先：練馬区健康福祉事業本部地域医療担当部地域医療課医療連携担当係

電話：03-5984-4673 (直通) FAX：03-5984-1211

問3 訪問診療を実施するに当たって、苦勞されていることは何ですか。(複数回答可)

- ① 休日・夜間の対応を行う職員体制を整えるのが困難
- ② 患者の状態変化時に受け入れてくれる医療機関が少ない
- ③ ケアマネジャーなど他職種との連携体制が取りにくい
- ④ 本人・家族との意思疎通や対応に苦慮する
- ⑤ その他 ()

《全員の方にお聞きします》

問4 訪問診療・往診を行う医療機関を増やすために必要なことは何だと思えますか。(複数回答可)

- ① 休日・夜間等に対応できる複数医師や病院・診療所との連携体制
- ② 患者の状態変化時の受入れ病床の確保
- ③ 在宅医療に関する研修の開催や、在宅医療に取り組んでいる医師の紹介体制
- ④ 訪問看護ステーションや介護スタッフとの連携体制、顔の見える関係の構築
- ⑤ 診療報酬や介護報酬の増
- ⑥ 在宅療養に関する区民の意識の高揚
- ⑦ その他 ()

問5 在宅療養を行うにあたって多職種連携は必要だと思えますか。

- ① 必要である
- ② 必要でない(問5-2へ)

《問5で「②必要でない」と答えた方にお聞きします》

問5-2 必要でないと考える理由は何ですか。

- ① 職種によって制度や考え方が異なり連携するのは困難だから
- ② それぞれの専門分野の仕事を行えば事足りるから
- ③ その他 ()

《全員の方にお聞きします》

問6 多職種連携が進んでいない理由は何だと思えますか。(複数回答可)

- ① 介護や福祉の制度がわからない
- ② お互いに多忙で連絡がとれない
- ③ 個人情報保護の観点から情報が共有されない
- ④ 交流の場がない
- ⑤ 誰と連絡をとればいいのかわからない
- ⑥ 介護従事者の医療に関する知識や理解が不足している
- ⑦ その他 ()

問7 多職種連携を進めるためには何が必要だと思えますか。(複数回答可)

- ① 事例検討会、研修や交流会をとおした顔の見える関係づくり
- ② ICT(情報通信技術)を活用したタイムリーな情報のやりとり
- ③ 多職種をコーディネートできる人材の育成
- ④ 医療・介護の知識や制度、各職種の専門性の相互理解のための研修
- ⑤ その他 ()

問 8 多職種連携において認知症特有の課題はどんなことだと思いますか。(複数回答可)

- ① 認知症対応の医療機関や介護サービスの情報が不足
- ② 医療機関や相談機関、介護サービス事業者とのコミュニケーションの場が不足
- ③ 早期発見、早期に医療や介護につなげる必要性の理解が不十分
- ④ 老老世帯やひとり暮らしの方等、当事者の意思決定を支えるしくみが整っていない
- ⑤ その他 ()

問 9 在宅(居住系施設も含む)に戻る患者について、退院前(時)カンファレンスは実施していますか。

- ① 必ず実施している
- ② 患者の状態や在宅復帰時の家庭状況などを勘案し、必要に応じて実施する
- ③ あまり実施していない(問9-2へ)

《問9で「③あまり実施していない」と答えた方にお聞きします》

問9-2 あまり実施していない理由は何ですか。

- ① 必要性を感じないから
- ② 忙しくて時間が取れないから
- ③ 在宅での生活支援は病院の仕事ではないと思うから
- ④ その他 ()

問 10 退院前(時)カンファレンスに出席を求めるのはどの職種ですか。(ただし、実際に出できるかどうかは問いません) 当てはまるものすべてに○をつけてください。

<病院スタッフ>

- ① 主治医 ② 主治医以外の医師 ③ 看護師 ④ 薬剤師
- ⑤ リハビリ職(PT・OT・ST) ⑥ 栄養士 ⑦ 医療ソーシャルワーカー
- ⑧ その他 ()

<在宅スタッフ>

- ① 主治医 ② 歯科医師 ③ 薬剤師 ④ 訪問看護師
- ⑤ リハビリ職(PT・OT・ST) ⑥ ケアマネジャー
- ⑦ 介護福祉士・ヘルパー ⑧ (退院先が施設の場合)施設職員
- ⑨ その他 ()

<その他>

- ① 高齢者相談センター(地域包括支援センター)
- ② 本人 ③ 家族
- ④ その他 ()

問 11 入退院時の在宅の主治医やケアマネジャー、訪問看護との連携について、課題があればご記入ください。

問 12 介護保険制度・サービス、在宅療養についてどの程度習熟していますか。

- ① 十分理解している ② やや理解している
- ③ あまり理解していない ④ ほとんど理解していない

問 13 貴病院への患者の受入、貴病院からの入所・入居の実績がある施設について、当てはまるものすべてに○をつけてください。

< 貴病院への受入 >

- ① 介護老人福祉施設 ② 介護老人保健施設 ③ 介護療養型医療施設
- ④ 有料老人ホーム ⑤ 軽費老人ホーム
- ⑥ 認知症対応型共同生活介護（グループホーム）
- ⑦ サービス付き高齢者向け住宅 ⑧ その他（ ）

< 貴病院からの入所・入居 >

- ① 介護老人福祉施設 ② 介護老人保健施設 ③ 介護療養型医療施設
- ④ 有料老人ホーム ⑤ 軽費老人ホーム
- ⑥ 認知症対応型共同生活介護（グループホーム）
- ⑦ サービス付き高齢者向け住宅 ⑧ その他（ ）

問 14 入退院時の介護保険施設等との連携について、課題があればご記入ください。

問 15 患者個別のカンファレンス以外に、地域の医療・介護の関係機関等と連携を図るための取り組みを行っていますか。

- ① 行っている（→ 問 15-2 へ） ② 行っていない

≪ 問 15 で「①行っている」と答えた方にお聞きします。 ≫

問 15-2 どのような取り組みを行っていますか。

- ① 近隣の関係機関を対象とした事例検討会の開催
- ② 連携のための情報システムの整備や連携ツールの活用
- ③ その他（ ）

